

第576回川崎医学会講演会



日時：令和8年2月4日(水) 17:30～18:30
場所：医大校舎棟M705 座長：仁科 惣治

「肝細胞癌複合免疫療法の真価を国内多機関共同研究から考察する」

香川大学 消化器内科 地域医療総合医学講座
客員教授 谷 丈二 先生

切除不能進行肝細胞癌（HCC）に対するICI複合免疫療法においては、現在保険適用となっている“アテゾリズマブ＋ベバシズマブ（Atezo+Bev）”と“デュルバルマブ＋トレメリムマブ（STRIDEレジメン）”の戦略的使い分けが重要である。Atezo+Bevは、高い奏効率と早期死亡抑制に優れ、国内データでも1st Line治療の全生存率（OS）中央値26.2ヶ月と良好な長期予後を示す。一方、STRIDEレジメンは単回プライミングによる長期生存（Long-term tail）を狙い、治療中の肝予備能維持にも期待できる。治療戦略として、早期の腫瘍縮小を狙うならAtezo+Bevを、肝予備能温存や長期の病勢制御を重視するならSTRIDEを選択する傾向にある。いずれの治療も免疫介在性有害事象（imAE）に対する早期管理と後治療への円滑な移行が、OS最大化の鍵となる。さらには、第3のICI複合免疫療法として最近保険適用となったニボルマブ＋イピリムマブ（Nivo+Ipi）の話題にも触れたい。

※大学院生で講義として受講する場合は必ず教務課（大学院）へ問い合わせてください。

お問い合わせ先：川崎医学会講演会担当内線：26037・34

《皆様のご来聴をお待ちしております》